

評価の観点と評価規準 1年

単 元		観 点 別 学 習 状 況 の 評 価 規 準		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
1 かずと すうじ	A	10 までの数について、よみ方やかき方、数系列を理解し、数のよみかき、大小比較、5 までの数の合成・分解が確実にできる。	ものの集まりをとらえ、数図ブロックと数詞と数を対応させて考えている。	ものの個数に関心を持ち、進んでいろいろなものの個数を数え、数で表そうとしている。
	B	10 までの数について、よみ方やかき方、数系列を理解し、数のよみかき、大小比較、5 までの数の合成・分解ができる。	ものの集まりをとらえ、数図ブロックを使って数えている。	身のまわりの具体的なものの個数に関心を持ち、個数を数え、数で表そうとしている。
2 なんばんめ	A	順序数の意味や使い方、集合数との違いを理解し、数と方向性を示す言葉を使って、順序や位置を確実に表すことができる。	基準を決め、方向性を示す言葉と数を用いて位置や順序を表している。	順番や位置の表し方に関心を持ち、進んで数を用いて表そうとしている。
	B	順序数の意味や使い方を理解し、数と方向性を示す言葉を使って、順序や位置を表すことができる。	方向性を示す言葉と数を用いて位置や順序を表している。	順番や位置の表し方に関心を持ち、数を用いて表そうとしている。
3 いくつと いくつ	A	数の合成・分解を通して、豊かな数の感覚を持ち、数を多面的に理解している。確実に 10 の補数をみつけることができる。	10 までの数の構成や 0 の意味を理解し、その性質を考えている。	進んで、10 までの数を合成したり、分解したりしようとしている。
	B	数の合成・分解を通して、数を多面的に理解している。10 の補数をみつけることができる。	10 までの数の構成や 0 の意味を考えている。	10 までの数を合成したり、分解したりしようとしている。
4 いろいろな かたち	A	身のまわりにある立体の観察を通して、形の特徴をとらえ、確実になかま分けができる。	積み木遊び、絵描き遊びを通して、体験的に箱や筒の形、三角などの形の特徴にはっきり気づくことができる。	身近にあるものの形に関心を持ち、進んでいろいろな形をつくろうとしている。
	B	身のまわりにある立体の観察を通して、形の特徴をとらえ、なかま分けができる。	積み木遊び、絵描き遊びを通して、体験的に箱や筒の形、三角などの形の特徴に気づくことができる。	身近にあるものの形に関心を持ち、実際につくろうとしている。
5 ふえたり へつたり	A	数量の増減を理解し、「ふえる」「へる」という言葉と結び付けて、数図ブロックを確実に操作できる。	増減の様子を、数図ブロックに置き換えて考え、言葉で説明している。	数量の増減に関心を持ち、進んで体験的に調べようとしている。
	B	数量の増減を理解し、「ふえる」「へる」という言葉と結び付けて、数図ブロックを操作できる。	増減の様子を、数図ブロックに置き換えて考えている。	数量の増減に関心を持ち、体験的に調べようとしている。
6 たしざん (1)	A	2 つのたし算の意味 (合併、増加) を理解し、 $(1 \text{ 位数}) + (1 \text{ 位数}) \leq 10$ の計算が確実に計算できる。	数図ブロックの操作と結びつけて合併と増加の意味を考え、説明している。	たし算を用いる場面に関心を持ち、進んで式に表そうとしている。
	B	2 つのたし算の意味 (合併、増加) を理解し、 $(1 \text{ 位数}) + (1 \text{ 位数}) \leq 10$ の計算ができる。	数図ブロックの操作と結びつけて合併と増加の意味を考えている。	たし算を用いる場面に関心を持ち、式に表そうとしている。
7 ひきざん (1)	A	ひき算の意味 (求残、求差、求部分) を理解し、 $(10 \text{ 以下の数}) - 1$ 桁の計算が確実にできる。	数図ブロックの操作と結びつけて求差、求残の意味を考え、説明している。	ひき算を用いる場面に関心を持ち、進んで式に表そうとしている。
	B	ひき算の意味 (求残、求差、求部分) を理解し、 $(10 \text{ 以下の数}) - 1$ 桁の計算ができる。	数図ブロックの操作を結びつけて求差、求残の意味を考えている。	ひき算を用いる場面に関心を持ち、式に表そうとしている。

単 元		観 点 別 学 習 状 況 の 評 価 規 準		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
8 かずしらべ	A	ものの個数について、簡単な絵や図に確実に表したり、それらをよみとったりできる。	ものの個数に着目し、身のまわりの事柄の特徴をとらえて、考えを説明している。	身のまわりの事柄に関心をもち、ものの個数を簡単な絵や図に表すよさに気づき、進んで数量を整理しようとしている。
	B	ものの個数について、簡単な絵や図に表したり、それらをよみとったりできる。	ものの個数に着目し、身のまわりの事柄の特徴をとらえている。	身のまわりの事柄に関心をもち、ものの個数を簡単な絵や図に表すよさに気づき、数量を整理しようとしている。
9 10 より おおきい か ず	A	20 までの数のよみ方や表し方、数系列を理解し、確実に 20 までの数をよんだり、かいたり、大小比較したりすることができる。	20 までの数を、10 といくつという見方で考え、説明している。	10 を超えるものの個数に関心をもち、進んで数えたり、表そうとしたりしている。
	B	20 までの数のよみ方や表し方、数系列を理解し、20 までの数をよんだり、かいたり、大小比較したりすることができる。	20 までの数を、10 といくつという見方で考えている。	10 を超えるものの個数に関心をもち、数えたり、表そうとしたりしている。
10 なんじ なんじはん	A	何時、何時半の時刻のよみ方、表し方を理解し、何時、何時半の時刻を確実によむことができる。	長針、短針が示す目盛りに着目して時刻を判断し、説明している。	時刻に関心をもち、進んで何時、何時半の時刻をよもうとしている。
	B	何時、何時半の時刻のよみ方、表し方を理解し、何時、何時半の時刻をよむことができる。	長針、短針が示す目盛りに着目して、時刻を判断している。	時刻に関心をもち、何時、何時半の時刻をよもうとしている。
11 おおきさくらべ (1)	A	色、材質、形状を捨象して、量としての長さやかさの意味を確実に理解し、長さやかさを比べることができる。	直接比較や間接比較、任意単位を使った比較の仕方を考え、いろいろ工夫することができる。	身近にあるものの長さ、かさ（体積）に関心をもち、進んで比較しようとしている。
	B	色、材質、形状を捨象して、量としての長さやかさの意味を理解し、長さやかさを比べることができる。	直接・間接比較や任意単位を使った比較の仕方を考えることができる。	身近にあるものの長さ、体積（かさ）に関心をもち、比較しようとしている。
12 3 つの かずの けいさん	A	加減の 3 口の場面が 1 つの式に表せることを理解し、確実に計算できる。	加法・減法を用いる場合を 3 口に拡張して考え、説明している。	3 口の場面に関心をもち、進んで加減を用いて式に表そうとしている。
	B	加減の 3 口の場面が 1 つの式に表せることを理解し、計算できる。	加法・減法を用いる場面を 3 口に拡張して考えている。	3 口の場面に関心をもち、加減を用いて式に表そうとしている。
13 たしざん (2)	A	(1 位数)+(1 位数)で繰り上がりのあるたし算の計算の仕方を理解し、確実に計算できる。	10 の補数を意識し、加数分解による繰り上がりの仕方を考え、説明している。	繰り上がりのあるたし算の仕方に関心をもち、進んで生活に活用しようとしている。
	B	(1 位数)+(1 位数)で繰り上がりのあるたし算の計算の仕方を理解し、計算できる。	10 の補数を意識し、加数分解による繰り上がりの仕方を考えている。	繰り上がりのあるたし算の仕方に関心をもち、生活に活用しようとしている。
14 かたちづくり	A	色板や棒などでいろいろな形が構成されていることを理解し、いろいろな形をつくることができる。	いろいろな形を構成することを通して、「三角」「四角」の特徴をとらえ、説明している。	色板や棒を並べたり、点を線でつないだりして、進んでいろいろな形をつくろうとしている。
	B	色板や棒などでいろいろな形が構成されていることを理解し、形をつくることができる。	いろいろな形を構成することを通して、「三角」「四角」の特徴をとらえている。	色板や棒を並べたり、点を線でつないだりして、いろいろな形をつくろうとしている。
15 ひきざん (2)	A	(十何)−(1 位数)で、繰り下がりのあるひき算の計算の仕方を理解し、確実に計算できる。	被減数を 10 といくつに分解して、減加法による繰り下がりの方をを考え、説明している。	繰り下がりのあるひき算の仕方に関心をもち、進んで生活に活用しようとしている。
	B	(十何)−(1 位数)で、繰り下がりのあるひき算の計算の仕方を理解し、計算できる。	被減数を 10 といくつに分解して、減加法による繰り下がりの方をを考えている。	繰り下がりのあるひき算の仕方に関心をもち、生活に活用しようとしている。
16 0 の たしざんと ひきざん	A	0 のたし算、ひき算の意味と計算の仕方を理解し、確実に計算できる。	0 を含む場合でも、たし算やひき算ができることを考え、説明している。	0 を含む場合のたし算やひき算を進んで見つけようとしている。
	B	0 のたし算、ひき算の意味と計算の仕方を理解し、計算できる。	0 を含む場合でも、たし算やひき算ができることを考えている。	0 を含む場合のたし算やひき算を見つけようとしている。

単 元	観 点 別 学 習 状 況 の 評 価 規 準		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
17 ものと ひとの かず	A ものと人のような異なる量の問題や順序の問題を計算する方法を理解し、図をみて確実に解くことができる。	ある数量を他の数量に置き換えたり、前の人から順番を考えたりして、説明している。	もとの人の数という量の異なる問題に関心を持ち、進んで加減計算を用いようとしている。
	B ものと人のような異なる量の問題や順序の問題を計算する方法を理解し、図をみて解くことができる。	ある数量を他の数量に置き換えたり、前の人から順番を考えたりしている。	もとの人の数という量の異なる問題に関心を持ち、加減計算を用いようとしている。
学 ものの いち	A 「上から」「左に」などの方向性を表す言葉を使ったものの位置の表し方を理解し、確実にものの位置を伝えることができる。	方向性を表す言葉を使って、適切なものの位置の表し方を考え、説明している。	ものの位置の表し方に関心を持ち、進んで生活にあるものの位置を表そうとしている。
	B 「上から」「左に」などの方向性を表す言葉を使ったものの位置の表し方を理解し、ものの位置を伝えることができる。	方向性を表す言葉を使って、適切なものの位置の表し方を考えている。	ものの位置の表し方に関心を持ち、生活にあるものの位置を表そうとしている。
18 大きい かず	A 十進位取り記数法、100 までの数のよみ方、表し方、大小比較の仕方、数系列を理解し、120 程度までの数を確実によんだり、表したり、大小を比較したりすることができる。	十進位取り記数法の仕組みを使って、数の表し方や数の大小比較の仕方を考え、説明している。	100 までの数に興味・関心を持ち、進んで数え方や表し方を調べようとしている。
	B 十進位取り記数法、100 までの数のよみ方、表し方、大小比較の仕方、数系列を理解し、120 程度までの数をよんだり、かいたり、大小を比較したりすることができる。	十進位取り記数法の仕組みを使って、数の表し方や数の大小比較の仕方を考えている。	100 までの数に興味・関心を持ち、数え方や表し方を調べようとしている。
19 なんじなんぷん	A 何時何分を表す時計のよみ方、表し方を理解し、時計をみて、何時何分を確実によむことができる。	時計の長針・短針のさす目盛りに着目して時刻を考え、説明している。	日常生活の詳しい時刻に関心を持ち、進んで何時何分かをよもうとしている。
	B 何時何分を表す時計のよみ方、表し方を理解し、時計をみて、何時何分をよむことができる。	時計の長針・短針のさす目盛りに着目して、時刻を考えている。	日常生活の詳しい時刻に関心を持ち、何時何分かをよもうとしている。
20 おなじ かずずつ	A かけ算やわり算の基礎となる同数累加、同数累減の場面を理解し、同数累加、同数累減のブロック操作や計算が確実にできる。	操作を通して、同じ数ずつのまとまりを考え、説明している。	同じ数ずつの集まりや分類する活動を通して、同じ数ずつを強く意識することができる。
	B かけ算やわり算の基礎となる同数累加、同数累減の場面を理解し、同数累加、同数累減のブロック操作や計算ができる。	操作を通して、同じ数ずつのまとまりを考えている。	同じ数ずつの集まりや分類する活動を通して、同じ数ずつを意識することができる。
学 たすのかな ひくのかな	A たし算（増加・合併）、ひき算（求差、求算）の意味を理解し、問題をよんで、何算になるかを確実に決定することができる。	根拠をもって何算になるかを判断し、その式になる理由を操作と言葉を結びつけて考え、説明している。	進んでたし算やひき算の問題場面を式に表し、その理由を説明しようとしている。
	B たし算（増加・合併）、ひき算（求差、求算）の意味を理解し、問題をよんで、何算になるかを決定することができる。	根拠をもって何算になるかを判断し、その式になる理由を操作と言葉を結びつけて考えている。	たし算やひき算の問題場面を式に表し、その理由を説明しようとしている。
21 100 までの かずの けいさん	A $(何十)+(何十)$ 、 $(何十)+(何)$ やその逆のひき算の意味や計算の仕方を理解し、確実に計算できる。	何十を 10 のいくつ分とみて、計算の仕方を考え、説明している。	簡単な場合の 2 桁の加減に関心を持ち、進んで身のまわりの生活に活用しようとしている。
	B $(何十)+(何十)$ 、 $(何十)+(何)$ やその逆のひき算の意味や計算の仕方を理解し、計算できる。	何十を 10 のいくつ分とみて、計算の仕方を考えている。	簡単な場合の 2 桁の加減に関心を持ち、身のまわりの生活に活用しようとしている。
22 おおい ほう すくない ほう	A 求大・求小の場面にも加法・減法を用いることを理解し、確実に問題を解くことができる。	ブロック操作を通して、求大・求小の関係を明確にとらえ、説明している。	日常の生活場面で、求大・求小の場面に関心を持ち、進んで解決しようとしている。
	B 求大・求小の場面にも加法・減法を用いることを理解し、問題を解くことができる。	ブロック操作を通して、求大・求小の関係をとらえている。	日常の生活場面で、求大・求小の場面に関心を持ち、解決しようとしている。

単 元		観 点 別 学 習 状 況 の 評 価 規 準		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
23 大きさを比べ (2)	A	広さの意味や比較の仕方を理解し、直接比較や任意単位を用いて、確実に広さを比べることができる。	直接比較や任意単位を用いた比較の仕方を考え、説明している。	ものの広さに関心をもち、進んで広さ比べをしようとしている。
	B	広さの意味や比較の仕方を理解し、直接比較や任意単位を用いて、広さを比べることができる。	直接比較や任意単位を用いた比較の仕方を考えている。	ものの広さに関心をもち、広さ比べをしようとしている。
学 かせますか？ かせませんか？	A	50 円を基準にした見積りの仕方を理解し、50 円を基準にして買えるか買えないかを確実に判断できる。	買えるか買えないかを 50 円を基準にして考え、見積りの仕方を説明している。	買い物場面に関心をもち、進んで見積もりに取り組もうとしている。
	B	50 円を基準にした見積りの仕方を理解し、50 円を基準にして買えるか買えないかを判断できる。	買えるか買えないかを 50 円を基準にして考えている。	買い物場面に関心をもち、見積もりに取り組もうとしている。